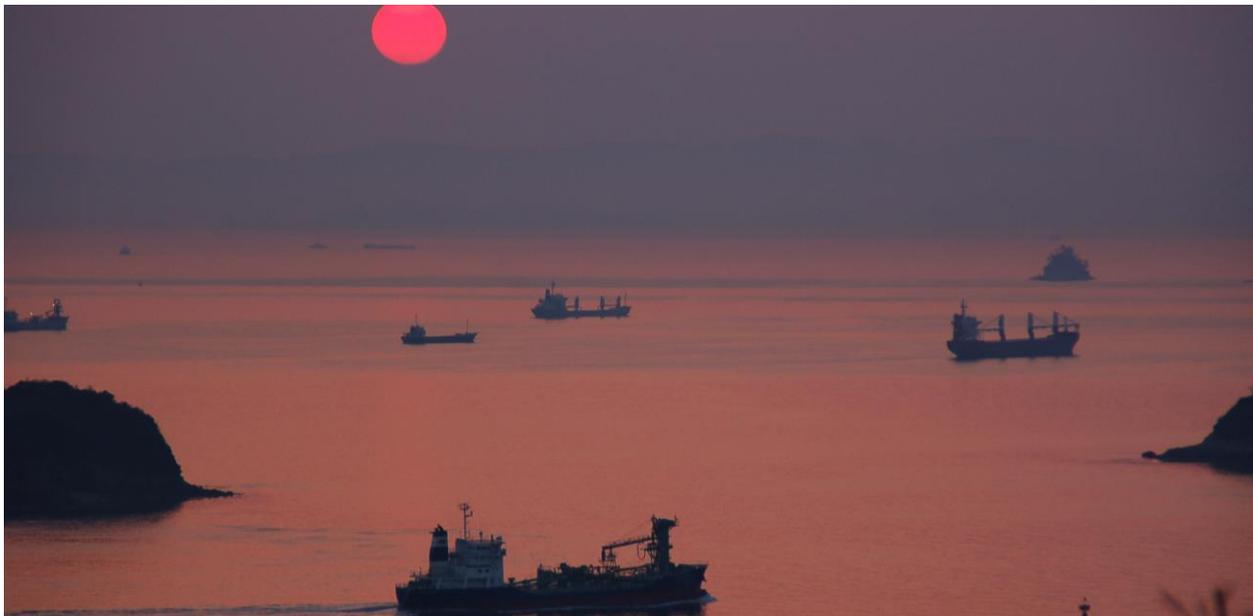


「赤レンガ」

〔平成29年度・第4号(新年号)〕

発行:倉敷市立児島市民病院広報委員会・地域医療連携室

発行月:平成30年1月



～ 基本理念と基本方針 ～

<基本理念>

- ・市民に信頼される地域の中核病院を目指す。
- ・人間味あふれる温かな医療を実践する病院を目指す。

<基本方針>

- ・市民が利用しやすくかつ患者中心の良質な医療を公平に提供するよう努める。
- ・地域の中核病院として市民のニーズに応え、初期・二次救急医療、小児の夜間救急の充実に努める。
- ・採算性を求めることが困難である救急医療、周産期医療、小児医療を提供し、公立病院として地域医療の確保に努める。
- ・市民の健康保持と福祉の増進を図るため、予防医療の充実に努める。
- ・地域医療の向上のための病診連携を図り、病床の一部を開放病床とする。
- ・病院の健全経営に努め市民の信頼に応える。
- ・疾病構造の変化に対応し得る医療体制の整備に努める。

★眼科からのお知らせ★

- ①白内障の手術を始めました。
- ②加齢黄斑変性糖尿病網膜症等の検査と治療ができます。

詳しくは眼科にてご相談ください。

2018年 新年のご挨拶

～愛される市民病院をめざして～ 院長 江田 良輔

厳寒の候、皆様のご体調はいかがでしょう。まだまだインフルエンザの流行も続く中、まずは外出後しっかり手洗い、うがいを励行して、どうぞご自愛ください。

新年を迎え、いよいよ新病院「倉敷市立市民病院」の船出（平成30年4月1日開院）間近になりました。休日返上、夜遅くまで総仕上げに精進なさっている建築関係の方々に深謝しながら、予想通りの、それ以上の出来栄への佇まいに個人的には大変満足しておりますが、ご支援くださっている皆様にこそお気に召していただけると幸せです。もとより大切なのは中身であることは重々承知しております。地域の皆様（の人生）にお役に立てる診療機能や医療サービスの充実、発展性について熟慮を重ねて設計にも参画させていただきましたので、必要なハードは申し分なく整い、肝心のエンジンの部分、組織を動かす「ひと」の質と量の充実に向けてエネルギーを費やしています。新病院といっても、最初からの完成形は、医療状況厳しい中、ご勘弁いただき、しかしながら今後3年計画で必ず、グレードアップして皆様のご期待に応えたいと決意しております。これからの激動する社会情勢に適応し、自らの行動を見直し変革できる病院組織であること、地域社会とともに発展し続ける病院になれるよう尽力しますので、今後ともご指導、ご支援の程何卒よろしくお願いいたします。

～市民病院のめざすもの～

- ▶ 「あってよかったー」と言ってもらえる、役に立つ地域基幹病院
- ▶ みんなが共同で支える地域医療、ウィンウィン関係
- ▶ 経営的に生き残れる病院
- ▶ 厳しい環境でも「やさしさを忘れない」、「夢をあきらめない」病院

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

新病院の工事は順調にすすみ、南側から見上げると見とれるような素晴らしい病院が完成間近となりました。これもひとえに皆様の温かいご支援の賜物と深く感謝申し上げます。

すでにご周知のように少子高齢化社会とともに、医療を取り巻く情勢は、加速度をますます上げ変化しております。そのような中、昨年早々に高齢者の定義について新たな提言がありました。現在の高齢者は10～20年前と比較して身体的機能低下の出現が5～10年遅くなっており、「若返り」現象がみられております。65～74歳においては心身の健康が保たれており、活発的な社会活動が可能な人が大多数を占めており、高齢者は75歳以上に定義するという見直しです。児島地区は倉敷市中心部に比べると高齢化率が高く、一人暮らしの高齢者も多い地域ではありますが、活発な社会活動をされている方が多く、しっかりと地域を支えておられます。

また当院では、一昨年より悲願の分娩再開が実現し、次々と元気な産声が聞こえています。地域の皆さまが生まれ、生活しそして人生の最終段階を安らかに迎えることができますように、地域の中核病院として引き続き安心・安全そして人間味あふれる温かな看護の提供に努めてまいります。

見とれるような素晴らしい病院の外観に負けないように、看護部一同精進してまいりますので、今後ともご指導の程、よろしくお願い申し上げます。

新しい年が皆さまお一人お一人にとって、笑顔と希望に満ちた1年となりますよう心から祈念申し上げます。

看護部長 三宅 千恵子



医療トピック

「せん妄」をご存知ですか？

～ 認知症かな？と思う前に ～

井上 真一郎(精神科リエゾン専門)

皆さん、「せん妄」をご存知ですか？

せん妄は、からだの病気で入院された患者さんや手術を受けられた患者さんによくみられるのですが、一般的にはあまり知られていません。せん妄がどのようなものかを前もって知っておくことで、患者さんが安心して入院治療を受けることができます。

ここでは、せん妄になるとどのような症状がみられるのか、その予防のためにどのようなことができるのか、そしてせん妄になった患者さんにはどのように対応すれば良いのかについて、具体的にご説明したいと思います。

はじめに、せん妄ではどのような症状がみられるのかについてご説明します。

せん妄では、時間や場所の感覚が鈍くなったり、幻覚が見えるようなことがあります。夜眠れなくなったり、会話の内容が辻褃の合わないものになったりもします。さらに、怒りっぽくなったり、からだについている点滴のチューブを自分で抜いてしまうこともあります。すっかり人が変わってしまったように見えるので、ご家族はとても心配されますが、これらはせん妄の症状であって決して意識的なものではありません。

入院患者さんにせん妄がみられることは多いのですが、実際にはせん妄のことを知らない方がほとんどですので、せん妄になった患者さんを見てご家族は「認知症になったのではないか？」といった心配をされます。せん妄と認知症は症状がとてもよく似ていますので、認知症と間違われることが多いのですが、実はまったく異なる病気です。一般的に、認知症は急にみられるものではなく、年単位でゆっくり進行していくもので、その点が特にせん妄と違います。

せん妄の直接的な原因は、次の3つです。

1. からだの病気→ 感染症や呼吸器疾患など、さまざまな病気によって起こります。
2. 薬剤→ 新しい薬が身体に合わないことによってせん妄が起こることがあります。
3. 手術→ 長時間にわたる手術の後には、特にせん妄が起こりやすいと言われています。

もし患者さんにせん妄がみられた場合、われわれ医療スタッフはその原因を突き止め、可能な限り取り除きます。せん妄はその原因を取り除くことができれば回復が可能で、それも認知症と違う点です。

なお、すべての入院患者さんが同じようにせん妄になりやすいとは限りません。次に挙げるような方は、特にせん妄が起こりやすいと言われています。

- ・ 高齢の方
- ・ 物忘れが目立ってきた方
- ・ 過去に脳梗塞や脳出血になったことがある方
- ・ 「せん妄」になったことがある方
- ・ アルコールをたくさん飲む習慣がある方



このような方がからだの病気で入院されたり、手術を受けることになった場合、せん妄になる可能性が高くなるのです。

では、患者さんやご家族は、せん妄の予防のためにどのようなことができるのかについてご説明します。

まず、日中は太陽の光を取り込んで、部屋をできるだけ明るくしましょう。昼と夜のメリハリをつけることが睡眠のリズムを整えることにつながります。次に、ふだんから眼鏡や補聴器を使用している方は、入院中も正しく着用しましょう。適度な刺激が大切で、五感をしっかり使うことを心掛けましょう。また、時間や場所の感覚がわかりやすくなるよう、時計やカレンダーをベッドの近くに置きましょう。ご家族は、ときどき日時の確認をしてみてください。さらに、本や新聞を読んだり、軽い運動をするといったことも効果的です。このように、せん妄の予防のために患者さんやご家族ができる工夫はたくさんあるのです。

ただし、十分な予防を行ったとしても、残念ながらせん妄を100%防ぐことはできません。では、患者さんがせん妄になったら、周りはどのように対応すればよいのでしょうか？

患者さんが辻褄の合わないことを言っている場合、ご家族は「しっかりしてほしい」という気持ちから、患者さんの言葉を訂正し説得しようとするところみることがあります。例えば、「あそこに人影が見える・・・」と不安げに訴える患者さんに対して、「そんなもの、私には見えませんよ！しっかりして！！」と言いたくなるのは当然かも知れません。ただ、そのように言ったところで患者さんが思い違いに気づくことはないばかりか、かえって不安を強くさせたり怒らせてしまうことが多いようです。ですので、無理に修正しようとせず、「人影が見えるなんて、不思議よね。不安かも知れないけれど、私たちがそばにいるので大丈夫よ。」などと安心できるような声かけが良いかも知れません。その場は話を合わせるだけでも十分ですし、もし対応で迷われることがあればぜひ医療スタッフにご相談下さい。

最後に、せん妄についてもっと詳しく知りたい方は、私が所属する岡山大学病院精神科リエゾンチームが作成した「せん妄の予防と対策について」というパンフレットをご覧ください(http://www.okayama-u.ac.jp/user/hos/141206_senmou.pdf)。また、YouTubeで動画「「せん妄」をご存知ですか？～その予防と対策～」を一般公開しておりますので、併せてご覧ください。

～新入職員紹介～

看護部 江本 久恵

6月から児島に引っ越してきました。児島の地域にも地域の皆様にも慣れ親しんでいければと思っています。早く職場にも慣れていきたいので、温かいご指導宜しくお願い致します。

看護部 岡 美由紀

このたび3階病棟に配属となりました。前職は国立療養所長島愛生園の老人精神センターでハンセン氏病後遺症に認知症を発症した患者の看護と附属看護学校の看護学生臨床実習指導、認知症ケアチーム会、EOLサポートチーム会等の活動にも尽力してきました。配属先では、前職の仕事内容も異なり不安と緊張がありますが、1日も早く仕事や環境に慣れ頑張りますのでご指導の程宜しくお願い致します。

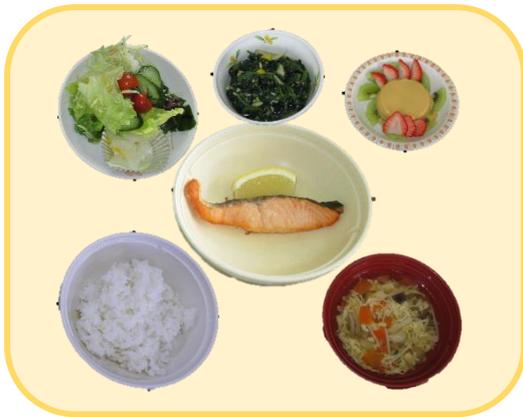
栄養だより

「糖尿病バイキングを開催しました！」



12月14日に当院健診センターにて糖尿病バイキングを開催しました。今年度のテーマは「年末年始を上手に過ごそう」でした。ごちそうばかりでどうしても食べ過ぎてしまう年末年始に気をつけてほしい間食のとり方やおせち・お餅の栄養量などについてお話ししました。参加者の方からは「普段食べるおやつはカロリーが高いですね。」「いつものお正月は食べすぎでした。」との声が聞かれました。

<主菜に魚を選ばれた方の献立の一例>



- ・ごはん (150g)
- ・鮭のムニエル
- ・ほうれん草のソテー
- ・野菜サラダ、かぶの酢の物
- ・コンソメスープ
- ・カスタードプリン フルーツ添え

エネルギー:551kcal、塩分:2.9g 野菜:180g

☆本当は控えて欲しいけれど・・・間食の上手なとり方

今回のバイキングでは低エネルギー甘味料を使用したカスタードプリン（エネルギーは一般的なプリンの半分程度かつショ糖を含まない）を食べていただきました。砂糖をたっぷり使った甘い菓子類は血糖のコントロールを乱し、肥満につながります。しかし、低エネルギー甘味料は肥満のリスクを上げず、砂糖を食べたときと同じような幸福感を得ることができます。甘いものが食べたくなったときの対策のひとつとして利用してみてもいいでしょうか？

またどうしても甘いものが食べたくなったときは15時のおやつではなく、食直後のデザートに食べることをおすすめします。食直後というのは、食事とった食物繊維や油が体の中にあるため、血糖値をあげにくいからです。

糖尿病に限らず、健康的な食生活は朝昼夕の食事が基本です。間食を習慣にせず、1日3食バランスの良い食事を心がけましょう。



今年度はバイキングをもって終了しましたが、当院糖尿病チーム会では隔月でさまざまな職種による糖尿病教室を開催しています。どなたでも参加できる教室ですのでぜひご参加ください。来年度の予定は今後病院掲示板等でご案内します。

社会福祉法人P. P. P.

地域密着型特別養護老人ホームP. P. P. ブラヴィッシモ！通生

P. P. P. ブラヴィッシモ！通生ショートステイ

P. P. P. ブラヴィッシモ！通生デイサービスセンター

施設長 早瀬 米彦

社会福祉法人P. P. P. は昭和55年11月11日に社会福祉法人ひまわりの会として開設し障がい福祉の一端を担ってまいりました。社会の高齢化も進み、関わる全ての人が最期の瞬間まで最高の人生が送れる施設を作りたいという思いのもと、平成29年11月1日に児島通生の地に特別養護老人ホーム、ショートステイ、デイサービスセンターの併設施設として『P. P. P. ブラヴィッシモ！通生』を開設いたしました。

『ブラヴィッシモ！』という舞台で最期まで主人公としてスポットライトを浴び続ける。最期の瞬間まで、利用者の方の人生に賞賛の声を…そんな想いを込めて、拍手喝采の意味をもつ「ブラボー」の最上級である「ブラヴィッシモ」という名前をつけました。

特別養護老人ホームは全室個室で入居者10名を1つの小集団とし、3ユニットに分かれて家庭的な雰囲気の中で今までの生活スタイルに沿えるような生活をしていただけます。ショートステイについても1ユニット10室を設けており、急な利用相談にもお応えできるよう努めております。

デイサービスセンターは1日定員20名で運動機器やマッサージ機器などを配置し心身機能の維持、低下予防を図ったり、職員や様々な利用者とのコミュニケーションが増えることで笑顔を引き出せる関わりが実現できるよう努めております。

そして、医療・福祉が連携し個々～家族～地域と共に成長させていただければと考えており、『私たちは だれもが本来持っている 希望や活力にスポットライトをあて、「自分らしさ」を実現することで ブラヴィッシモ！な暮らしを最期までプロデュースする。』

この事業方針を基に地域の皆様はじめ、関わる全ての人々の期待や要望に応えることができるよう、また、だれもが気軽に立ち寄れて『ブラヴィッシモ！通生ができてよかった』といつまでも必要とされる施設を目指していきます。

このたびは、開設したばかりの当事業所へこのような機会を頂きましたことに深謝申し上げます。

住所：倉敷市児島通生818

TEL：086-454-5541



発行者：倉敷市立児島市民病院

住所：〒711-0921 倉敷市児島駅前2丁目39番地

TEL：086-472-8111（代表）FAX：086-472-8134（連携室直通）

<http://www.city.kurashiki.okayama.jp/kojimahospital/>（[児島市民病院](#)で検索）